

令和6年度 江戸川区立西葛西小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

<p>学校教育目標</p> <p>○考える子 ○心豊かな子(重点目標) ○たくましい子</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p> <p>○児童が明るく元気に学び合える学校(児童が通いたい学校) ○保護者が安心して子供を任せられる安全な学校(保護者が通わせたい学校) ○地域に開かれ、地域に信頼される学校(地域が応援したい学校) ○教職員が協力し合い、自分の力を発揮できる学校(教職員が働きたい学校)</p>	
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <p>・ICT研修を実施したことで教員のICTスキルが向上。タブレット端末を使った学習については90%の児童が「分かりやすい」と回答した。 ・「休み時間に外で遊んでいる」児童はR4年度より15%増加。体力テストの計測数値が前年度比5項目で向上(各学年平均)。「すもう大会」をコロナ禍前の方法で3年ぶりに開催。</p>	<p>課題</p> <p>不登校児童本人の特性に合った居場所づくりの推進。別室指導員の活用、エンカレッジルーム、学校サポート教室や共有プラザへの登校などを促す。 授業時数と会議を減らし業務改善を推進。子供と向き合う時間の確保や授業力向上につなげる。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進による主体的・対話的で深い学びの実現 ・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ・特別活動の充実による自主的・実践的な態度の育成	・朝学習、放課後補習教室を年70回以上実施 ・3~6年生の習熟度別少人数算数授業の実施 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の1日1回以上の実施 ・江戸川っ子study week!の学期1回の実施 ・過程を大切にされた学校行事の実施	・東京ベーシックドリルで80%以上の児童が、正答率80%以上達成 ・児童アンケート「学習することが楽しい」85%以上 ・「学校生活が楽しくなるように、係活動や学校行事などにすすんで取り組んでいる」85%以上	B	B	B	・児童アンケート「学習することが楽しい」91%で昨年度とほぼ同様の結果である。 ・「学校生活が楽しくなるように、係活動や学校行事などにすすんで取り組んでいる」90%と学習や行事に対して前向きに取り組んでいることがわかる。 ・東京ベーシックドリル(7月)の正答率80%以上の達成率は、2年36.5%、6年31.2%で未達成である。4・5年は学力定着度調査平均正答率は(4月・算数)は4年83.3%、5年75.3%である。	B	・目標が高いのか、ベーシックドリルを目標とすることでいいのか、再検討が必要。 ・学力が向上するように手立てを考えてほしい。	B	・児童アンケート「学習することが楽しい」90%「学校生活が楽しくなるように、係活動や学校行事などにすすんで取り組んでいる」87%と1学期と同様に高く学習や行事に対して前向きに取り組んでいる。 ・東京ベーシックドリル(1月)の正答率80%以上の達成率は、2年81%、3年生58%、6年59.5%である。未達成ではあるが、1学期と比較するとアップした。4・5年学力定着度調査平均正答率は(7月)4年74.5%、5年75.4%(1月)は4年74.6% 5年77.2%で微増。	B	・テストに向けて自学することは、中学校でも活きているので続けてほしい。 ・自分の課題に応じた学習の仕方を身に付けることは、中1ギャップを解消し、安心して進学できるように繋がるのではないかと。	11月のベーシックドリルは約10日間のテスト勉強期間を設けた。ドリルパークの東京ベーシックドリルを課題配信し、空き時間や家庭学習などで各自取り組ませた。また、解説付き解答配布できるように繋がるのではないかと。
	<教員の専門性向上> ・教員の専門性を生かす指導体制の充実 ・校内研究の充実	・高学年における教科担任制の実施 ・全学年における授業研究及び協議会の実施	・児童アンケート「教科担任制での学習は分かりやすい」85%以上	A	A	A	・本校では、5年生4学級で理科と社会科、6年生3学級で国語・理科・社会科の教科担任制を実施している。児童アンケート「教科担任制での授業は分かりやすい」は91%であり、今後も授業を充実させていく。 ・1学期は2年生の校内研究授業を実施した。2学期以降全学年で行う。	A	・教科担任制は、児童にとっては、いろいろな先生と関わることができる。相談できる関係も構築できる。 ・教師にとっても教材研究を十分できるし、2回目以降の授業に活かすことができている。	A	・児童アンケート「教科担任制での授業は分かりやすい」は95%であり、1学期よりさらに向上した。 ・2学期は1年生、5年生、6年生、3年生の校内授業研究を行った。国語科文学教材の「読むこと」を通して、授業改善に努めることができた。3学期は4年生で実施した。	A	・教科担任制は中学校で続くので受け入れやすいのではないかと。 ・国の方針は中学年からということだが、中学年の成長段階に合わせた指導をしてほしい。 ・児童を複数の教師が担当するので、連携を取って指導してほしい。	・高学年での教科担任制も来年度は3年目を迎える。教師の授業力向上のためにも、各教科(主に社会・理科)での授業の積み重ねを学校でデータ化して保存し、系統立てた教科指導や教材研究を共有できるようにしていく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の充実	・全クラス学期3回以上の図書館活用 ・読書科研修の充実 ・学校司書の活用 ・学校図書館の環境整備 ・国語科の校内研究と関連させた読書活動の充実	・全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施 ・児童アンケート「進んで読書をする」80%以上	A	A	A	・西葛西団体貸出レファレンスの利用が1学期複数学年(2・4・6年)で行われ読書科で活用された。 ・児童アンケート「進んで読書をする」は81%であり昨年度2回目の結果より9%向上した。(保護者69%変化なし)	A	・読書はどうしても個人の偏りが出してしまう。団体貸出の利用や調べ学習を推進することで、多様なジャンルの本に触れる機会となる。 ・保護者は「すすんで」という言葉に引っかかっているのかもしれない。家庭ではタブレットに触れている時間の方が長い。	A	・西葛西団体貸出レファレンスの利用が2学期も複数学年(3・4・5・6年)で行われ読書科で活用された。 ・一方、児童アンケート「進んで読書をする」は75%であり1回目の結果より6%低下した。(保護者72%←3%向上)	A	・辞書はめぐる楽しさがある。出版されているものは信用度が高いので、本のジャンルを増やし読書に親しんでほしい。 ・タブレット禁止デーを設定するのも一つの方法では。本で学ぶ学習活動を取り入れることで、デジタルと紙、それぞれのよさを学ぶことができる。	・本校は西葛西図書館に近い立地である。西葛西図書館と連携することで、本校の蔵書以外の多様なジャンルの本に触れることができる。次年度も朝読書、読書科の時間を活用し、読書の充実に努めていきたい。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲や基礎体力の向上を図る取組の実施・充実	・なわ跳びウィークを年3回実施 ・晴れた中休みは外遊び実施 ・運動を得意としない児童への十分な配慮	・児童アンケート「外遊びをよくしている」80%以上 ・体力テスト各種目の平均点において半数以上の種目で区平均以上	A	A	A	・「休み時間に外遊びをよくしている」児童は85%と昨年度と同様の結果である。 ・体力テストは5月から練習期間を設け、6月に全校一斉実施した。なわ跳び週間やなわ跳び出前授業を通して運動に親しみきっかけづくりを醸成できた。	A	・なわ跳び等を活用して、体力づくりに励んでほしい。	A	・「休み時間に外遊びをよくしている」児童は81%と1学期と同様の結果である。児童アンケート「私は休み時間に外で遊んでいる」も1学期85%、2学期83%と高水準を維持することができた。	A	・東京都や区内平均より記録がよく何よりである。今後共、体育が苦手な子への取り組みや嫌いにさせない授業づくりの工夫をしてほしい。 ・親としても運動不足が気になる。なわ跳びなどの取り組みは継続してほしい。	・学級のおそび係を活用して、全員で遊ぶ機会を設けている学級も多い。次年度もなわ跳び週間を活用し、運動に親しみきっかけづくりを戦略的に仕掛けていきたい。
	<健康の増進> ・食に関する指導の充実 ・歯を磨く習慣の定着	・味覚の指導 ・給食後の歯磨きタイムの設定 ・フッ化物洗口の実施	・保護者アンケート「歯を磨く習慣」80%以上	A	A	A	・保護者アンケート「歯を磨く習慣が身に付いている」は83%である。(児童85%)6月から給食後の歯磨きタイムを実施している。 ・フッ化物洗口については5月学校公開で保護者説明会を実施し同意書を回収、運動会後に実施予定である。	A	・保護者、児童の回答がほぼ同数なので、歯磨きが習慣化されていることが伺える。 ・学校からの声掛けを引き続き行い、家庭と連携してさらに歯磨きを推進してほしい。	A	・「歯を磨く習慣が身に付いている」は保護者87%、児童85%と同水準を維持した。 ・フッ化物洗口については、夏季休業中に教員研修を実施、10月から安全に留意して各学級の回数が平等になるように実施できた。	A	・学校だけでは無理なので、家庭でも声を掛け歯磨きの習慣をつけていく。	・家庭と学校が協力することで、児童に歯を磨く習慣を定着させることができた。次年度も今年度の実施方法を年度当初に教員に周知することで、安全に歯磨きタイムを実施していく。

教育の推進	<p>＜特別支援教育の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画の作成 ・校内委員会を月1回実施 ・毎時間のエンカレッジルーム担当教員の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所、幼稚園等との交流を1回以上実施 ・児童アンケート「友達を大切にしている」90%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会(月1回)生活指導タテ(金)を通して、配慮が必要な児童の情報を共有し、エンカレッジルームでの個別対応に活かしている。一方、保護者アンケートは「分からない」が53%である。学校側の取り組みをどう発信していくかが課題である。 ・児童アンケート「友達を大切にしている」は昨年度同様95%である。(保護者99%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童に配慮した取り組みを継続し、エンカレッジルームなどを活用して対応して欲しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する児童の対応について教員間で情報を共有し、個別対応に活かすことができた。保護者アンケートは「分からない」が53%であり変わらない。 ・児童アンケート「友達を大切にしている」は1学期同様95%である。(保護者97%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童一人一人に合わせて対応を継続してほしい。 ・年度末の児童の引継ぎをしっかりと行い、次年度の学年・学級経営に活かす。 ・経験年数が浅い教員へのOJT研修を継続的にを行い、学年で支えていくことで円滑な学級経営が行えるようにしていく。
	<p>＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の強化 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応 <p>＜不登校対策の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・児童の心に響く共感的な生活指導 ・いじめの授業やいじめアンケートを年間3回実施 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率10%以下 ・いじめの早期発見、解消率100% 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のふれあい月間でいじめアンケートを実施。結果を集計し、いじめ防止対策委員会での共有をした。今後、11月、2月と実施する。 ・Hyper-QUは6月に実施した。結果が届き次第、児童への生活指導及び学級経営に活用していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUの結果を生活指導及び学級経営に活用して欲しい。 ・家庭で安心感を得られている児童もいるのではないと思う。その児童にとっては学校は支えであると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUの結果から、児童理解が深まり、生活指導及び学級経営に活用していくことができた。 ・11月のふれあい月間でアンケートを実施した。問題があった場合は早期に対応し、いじめ防止対策委員会で共有し組織的に対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての件に100%対応してもらい何よりだが、今後共未然防止に努めてほしい。 ・道徳や学級活動等ていじめに関する授業を年間3回以上実施する。 ・道徳や学級活動の時間を活用し、様々な思いをもった人間が集まって学級を形成していることを理解できるようにしていく。
不登校・いじめ対応の充実	<p>＜不登校対策の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な観察や情報共有 ・校内における居場所づくり ・関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の関係諸機関との連携100% 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童の保護者と担任との電話相談、家庭訪問を実施している。日常的に情報共有を行い、校内における居場所づくりに繋げている。 ・保護者アンケート「教員は児童の悩みごとや困ったことに寄り添っている」は84%である。(昨年度も同様) ・関係機関との連携は随時進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も注意深く一人一人の児童を見取り、保護者からの相談に対して管理職と担任で組織的に対応してほしい。84%に含まれない16%が実は悩みをもっているかもしれない。 ・児童自身が相談できる環境づくりを進めてほしい。相談から何か糸口が見つかることもある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での不登校対策委員会を月1回行っている。不登校傾向が見られた児童への早期対応を行う必要がある。 ・保護者アンケート「教員は児童の悩みごとや困ったことに寄り添っている」は1学期同様84%である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早期対応が大切である。登校実績が1日もない児童には別の手立てを講じ、社会とのつながりをもたせてほしい。 ・不登校傾向が見られた場合、家庭訪問や保護者面談を早期に行い長期化を未然に防ぐ。不登校児童の特性に合った居場所づくりをすすめ、エンカレッジルーム、学校サポート教室や共育プラザへの登校などを促す。
	<p>＜自校(園)の取組の積極的な発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの毎日の更新 ・学校公開の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ閲覧数昨年度比100%以上 ・学校公開への参加率90%以上 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」80%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「教育活動の公開度」は96%であり、昨年度より1%向上した。(昨年度と同水準) ・学校公開 5月参加率72%、わくわくすもう大会92%、6月90%である。 ・学校ホームページは毎日更新している。昨年度3月と比較し、6月の訪問数は3倍、閲覧数は2倍と確実に伸びている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新頻度が高く学校の様子がよく分かる。今後も継続してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「教育活動の公開度」は92%であり、ほぼ1学期と同水準である。 ・運動会参加率97%、展覧会96%である。 ・学校公開後の保護者アンケートは集約し、全教職員で共有した。改善が必要な場合は早期に対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も計画的に学校公開を実施して欲しい。 ・江戸川区教育委員会が示した基準に基づいて、次年度の教育課程を編成する。その際、保護者が来校しやすい時期を選んで学校公開の時期を計画していく。
学校(園)の開かれた地域社会の実現	<p>＜保護者・地域の方々の協力による教育活動の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団、読書ボランティア、授業ボランティア等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「保護者・地域の人材活用」80%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「保護者・地域人材の活用」は93%である。 ・1学期は体力テストや読み聞かせ、生活科町探検で保護者ボランティアを募り、教育活動を推進できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティも縦で動いているところが多いので、西葛西小内にとどまらず、横の広がりができていくとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「保護者・地域人材の活用」は88%である。 ・2学期は生活科見学、読み聞かせで保護者ボランティアを募り、教育活動を推進できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア、読み聞かせ、校外学習引率など、今後も計画的に実施できるとよい。 ・保護者、地域人材を活用していくことは、本校の教育活動を公開することにもつながる。次年度も、計画的にボランティアを募っていく。
	<p>＜学校関係者評価の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校統一された重点項目による評価実施 ・評価分析結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価にてA評価を80%以上 ・保護者アンケートにて全項目の平均で肯定的な意見80%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業は楽しい(93%)教科担任制(88%)係活動・行事への取り組み(93%)保護者・地域の人材活用、学校からの発信、働き方改革については肯定的な意見が90%近い。 ・「学校評価について学校の様子が分かる」は、71%であり、「よく分からない」16%なので、分かりやすい評価分析の公表が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が高かった項目は現状のまま取り組みを継続していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで14項目中11項目で80%以上を達成した。未達成の項目も「進んで読書」は3%向上、「学校評価」は7%向上した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も学校で取り組んでいるものを適宜発信しながら、保護者の協力を得て教育活動を推進してほしい。 ・保護者アンケートで伸び率が高かったのは「学力向上の取り組み」と「歯磨きの習慣」である。学校が重点的に取り組んでいるものは保護者にも周知することで協力や理解を得ることができると期待している。次年度も保護者への協力を呼び掛けていくことが有効と思われる。
教育の展開	<p>＜特色ある教育施設を生かした教育活動の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土俵の活用 ・愛鳥モデル校 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくすもう教室」や「わくわくすもう大会」の実施 ・巣箱づくりの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「特色ある教育活動の実施」80%以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「特色ある教育活動の実施」は97%、今度も学校公開、HP等を通じて、学校の取り組みを発信していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・西葛西小伝統の相撲を今後も継承して欲しい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「特色ある教育活動の実施」は98%、3学期は道徳授業地区公開講座、HP等を通じて、学校の取り組みを発信していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・西葛西小ですもうを経験したことは子供たちのよき思い出になっている。 ・土俵で相撲に取り組むことを児童も励みにしている。カゴ委員さんと連携し、西小伝統のすもう大会を今後も継承していく。
	<p>＜防災意識の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童を対象とした防災に関する授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の児童アンケートにおける肯定的な回答90%以上 	-	A	-	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は実施なし 	-		-	<ul style="list-style-type: none"> ・2月学校公開で実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・とても真剣な表情で聞いていた。自分の地域の特徴を学び防災意識を高めてほしい。 ・中学年の社会科、5年生の国土の学習を活かして今後も防災教育を推進していく。
	<p>＜学校における働き方改革＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営支援を担う人材の導入 ・校務の精選と見直しの継続的実施 ・定時退勤の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価(教職員)での働き方改革推進に関する項目のA評価70%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年アシスタントの配置(低学年)、SSSの活用などを通じ、印刷、アンケート入力などの仕事を依頼できる環境が整ってきた。 ・教職員A評価48%、B評価48%、C評価4% ・職員による改善案を集約し、校務の精選と見直しを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革で生まれた時間を授業の工夫に活用して児童に還元して欲しい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から毎週水曜日が4時間授業になった。時間的なゆとりが生まれたことで、放課後の学年会や行事の準備などに充てることができた。 ・教職員A評価50%、B評価44%、C評価6% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・形式やシステムを作るだけでなく、実際に退勤時間が早まるように、今後も継続して取り組んでほしい。 ・校務の精選と見直しの継続的に実施し、在校時間の減少に努める。